

渡邊卓哉さん

私は、会社(某建設会社)の社員留学制度を利用してAITに留学しています。私がAITに留学する前は、ODA(Official Development Assistance: 政府開発援助)などを利用した当該国での国際公共事業入札や、東南アジアでの空港や高速道路の建設に携わってきました。AITを志望した最初の理由は、今まで100人ほどいる日本人卒業生のうちの3人が同じ部署にいたため比較的情報が得やすかったことです。数多くの卒業生がアジアの政府・企業等で活躍していることや、企業と繋がりを持っている民間出身の教授が多く実務に合致した講義が行なわれていることなども興味を持ちました。その他には、AITは多国籍大学院であるということです。実際、私のクラスには12ヵ国(東南アジア、南アジア、アフリカ、アフガニスタンなど)の奨学生がいて、文化、宗教、価値観の違いをお互いに尊重しながら日々学生生活を送っています。

現在、私は建設マネジメントを専攻しています。MBA(Master of Business Administration)の建設版です。授業は、今まで実務を通して積んできた現場での経験とアカデミックな知識を比較できる非常に有意義な場となっています。将来は、AITで学修した知識と幅広い情報網を活用して、会社のグローバル化を担い戦略的に海外事業を展開していきたいと思っています。私は今年の5月で卒業なので、現在はタイ・運輸省道路局と共同研究で『タイの道路プロジェクト契約形態』について修士論文に取り掛かっています。



AIT

君嶋里美さん

お茶の水女子大学大学院とAITにおいて、ジェンダーと開発の分野で修士号を取得しました。国連機関でのインターンシップを経験後、博士課程に進学し、現在は長井先生のもとでリモートセンシング/地理情報システムを学んでいます。AIT独特のマルチナショナルな環境の下、国際性を養い、学際的なアプローチが出来るような研究者を目指しています。卒業まであと2年ありますが、アカデミックな知識を深めると共に積極的に現地経験を積み、有意義な研究生活を送りたいと思います。



Saengabha Srisopapornさん

タイ・マヒトン大学の学生だった時の先生たちに、AITの卒業生が何人かいました。その先生たちや海洋学の大学教授でもある母の薦めでAITに入学することにしました。私は現在、自然資源管理の修士課程を専攻しています。卒業後は、今も少しパートタイムでお手伝いしているのですが、日本の環境NGO団体で、タイの教育プロジェクトのプランニングや通訳としてタイ人と日本人を繋ぐ仕事をする予定です。また現在、AITではジェネラル・アッセンブリー(生徒会)で会長に選出され、とても貴重な体験をさせてもらっています。



Asian Institute of Technology

58 Moo 9, Km. 42, Paholyothin Highway, Klong Luang, Pathumthani 12120

02-516-0110~44

email: Admissions@ait.ac.th

www.ait.ac.th

川崎昭如 (Dr. Akiyuki Kawasaki)

東京大学・生産技術研究所・都市基盤安全工学国際研究センター (ICUS)・特任准教授。AIT・水工学管理専攻・客員准教授。横浜国立大学で博士号を取得後、東京大学生産技術研究所、国際連合大学、ハーバード大学を経て、2010年5月より現職(東京大学からの派遣)



川崎先生と水工学管理専攻の学生たち

— 専門分野を教えてください —

水工学管理が専門です。流域環境管理を目的として、降雨や河川流、ダムなどの水資源に関するデータや土地利用変化などの人間活動に関するデータを分析したり、災害対応なども研究します。2011年のタイの洪水時も分析を行いました。この年は大きな低気圧が5つタイに上陸し、雨量が例年の1.4倍を記録。北部のダムでは早い段階で満水となりました。また、中流、下流ではタイ政府とバンコク都庁が洪水対応について対立し、意思決定が遅くなったことが被害がより拡大した要因の一つとされています。水工学管理として、水の流れの検証はもちろん、タイ政府とバンコク都庁の組織間の調整や情報共有なども調査しています。

また、東南アジア二帯の流域管理や農業に関する研究も行っています。特に今はメコン川流域での気候変動や農地の拡大が利用可能な水資源量に与える影響について分析しています。農業に関しては雨の降るタイミングが重要です。農業は降ってほしい時期、降らないでほしい時期があつて、そのタイミングが

少しでも違えば収穫量に多大な影響が出ます。また、現在、多くの森林が大規模な農地へと変えられています。農地は、森林に比べて保水力が低くそのうえ、多くの水量を消費します。このことによりどのような影響が出ているのか現在、分析しています。

— AITについて —

AITではアジア各国をはじめ、いろいろな国籍の学生が勉強をしています。しかもただの学生ではなく、ミャンマーをはじめ、タイ近隣国の政府職員や大学講師、会社からの派遣留学など、さまざまな国からその道のプロフェッショナル達が更なる向上のためにこの大学院に来ています。そのため、ここで培われる人脈は、他の大学院などではなかなか作ることのできない、かけがいのないものとなるはずです。ある意味、アジアの頭脳を繋ぐハブの役割を担っているのかもしれない。また、AITには3人の日本人教員がいます。企業の方や入学希望の方、アジアでの地域開発やAITについて相談、質問あれば気軽に問い合わせていただければと思っています。

— 専門分野を教えてください —

空間情報工学を専門としています。リモートセンシングというのですが、人工衛星から送られてくる画像など地球観測データの解析を行っています。リモートセンシングとは、地球温暖化や森林などの環境監視、洪水や津波などの災害モニタリング、海洋情報の把握などさまざまな分野で利用されている宇宙利用技術です。現在はセンチネルアジアという災害監視プロジェクトを担当しており、世界中の宇宙機関が人工衛星で観測したデータを解析し、被災国に情報を提供しています。最近の私のチームでは、東日本大震災やタイの大洪水について人工衛星による緊急災害観測とデータ解析のマネジメントを行い、世界中から集まった衛星写真や観測情報を解析し、日本政府やタイ政府に対して災害や被害情報の提供を行いました。これらの活動は発災後数時間で発動するので、とても貴重な初期情報になります。

また、積極的に現地調査も行います。タイの洪水の際には衛星写真だけで判断するの

ではなく、実際に現場に出て調査などを行い、宇宙からの情報と実際の現場との整合性を検証することも行いました。

— AITについて —

私が指導している学生は国籍も年齢もバラエティーに富んでいます。タイ、日本、ネパール、アフガニスタンやバングラディッシュ、ヨーロッパやアフリカからの学生もいます。また、大学で講師をやりながら、博士号取得を目指している学生もいます。私よりも年齢が上の学生もいるんですよ。AITではアジアにおける高等教育を行い、それぞれの国に戻り、地域のリーダーとなりうる人材を育成しています。アジアでネットワークを構築するにはAITは最適の環境です。アジアでインフラ整備などの環境開発に携わっている教員も多くいるので、実際に建設業界、企業から開発に関する相談も多く、実践的な環境が整っていると思います。その他、MBAコースもあり、その学位を取得することができま



長井正彦 (Dr. Masahiko Nagai)

東京大学で博士号を取得後、同大学で人工衛星による地球観測や観測データの相互利用に関する研究に従事。2010年より、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 主任研究員としてAITに赴任。AIT地理情報センター副センター長とリモートセンシング・GIS学科教官を兼務。アジアの防災監視プロジェクトの解析コーディネータ。東京大学空間情報科学研究センター客員研究員、バングラディッシュ情報理工学客員教授。工学博士



長井先生が解析した2011年のタイ・大洪水発生時(右)と災害前(左)の衛星写真。アユタヤからドムアン空港にかけて黒色が洪水域、赤色が農地などの植生域